

ユ スフ エステス 元キリスト教牧 (5/5)

:

明:

活 的なイスラ ム宣教 であるユ スフ エステスが面白おかしく る、自身の改宗 。第5部: 皆で一 にム
リムに。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ユ スフ エステス

日 3 Sep 2013

集日 23 Sep 2013

妻によるイスラ ム入信宣言!

それから、私は二 に上がり、この事 について改めて考え直すため、妻に相 しました。
すると彼女は、それが真理であると 信しているため、彼女自身もイスラ ムに入信する
ことにしたと言いだめたのです。

ショック!

そのとき、私は本当にショックを受けました。私は一 に降り、ムハンマドを起こし、
があるから外に出ようと切り出しました。私たちは散 がてら、一 中 し合いました。

真理は れた!

彼がファジュル (早朝の礼) の祈りの を始め出す になると、私は遂に真理が到 したこ
とを悟り、やらねばならないことをやると 心しました。私は父の家の 手へ行き、古い
ベニヤ板が がっているのを つけると、そこにムスリムたちが一日5回の礼 をしている方

角へと向けて私は ずいたのです。

神よ！ 私にお きを！

ベニヤ板の上に膝まずき、地に を付けたその状 で、私は言いました。「神よ、もしあなたがそこにいらっしゃるのであれば、私にお きを。私にお きを。」

私の中のしるし

しばらくして を上げると、私は何かに 付きました。いえ、 に空から や天使たちが舞い降りてくるのを た ではなく、声や音 が こえてきたのでもなく、明るい光や煌きが えたわけでもありません。私が 付いたのは、自分自身の中の 化です。私はそのとき、これ以上嘘をつき けること、卑怯なことを止めなければならないということのをこれまでになく自 したのです。 で素直な人 になる努力を始めるべき が来たのです。そのとき、私は何をしなければならないのか分かりました。

「古いもの」を洗い流す

それから二 へ上がり、 の と共に成り果ててしまった罪深い人物像を洗い流す 持ちを持ちつつ、シャワ を浴びました。そして私は新しく清らかな人生を始めようとしていました。その人生は、真 と根 の上に成り立ったものです。

そして新たな段 へ

その日の朝11 、私は元牧 のピ タ ジェイコブスとムハンマド アブドッラフマ ンを二人の人として「シャハ ダ」（神の唯一性と、ムハンマド〔神の慈悲と祝福あれ〕の 言者性を 言すること）をしました。

「私は唯一にして同位者なき全能なる神以外に崇 されるべき神はなく、ムハンマドがかれの使徒でありしもべであると 言します。」

私の妻も

その数分、私の妻も いて同じ 言をしましたが、彼女には3人の 人がいました（私が加わったからです）。

私の父も

私の父はこの件に して多少保守的な 度を示しましたが、数ヵ月 にはシャハ ダをしました。彼は最 的には私と共にイスラ ムに献身し、地域のマスジド（モスク）で他のムスリムたちと共に礼 を捧げるようになりました。

私の子供たちも！

子供たちはクリスチャン学校からムスリム学校に 校しました。そして10年 の今、彼らはイスラ ムの教えに熟知し、クルア ンの多くの部分を暗 しています。

父の妻（母）も

私の父の妻も、彼女が亡くなる前に、イエスが神でも神の子などではなく、彼が神の言者であることを めました。彼女はそのことを述べた数ヵ月、86 で亡くなりました。神が彼女の信仰 言をお めになりますよう、ア ミン。

家中に新ムスリムたちが…次は？

では、ここで一旦考えてみてください。出自や民族の なる一家全 が して真 に到 し、宇宙の 造主を知り、その崇 の方法を学んでいる光景を。どうでしょう。カトリック牧、ミュ ジシャン牧 /福音 道者、任命牧 /キリスト教学校 立者、そして子供たちや 祖母 彼らはみなイスラ ムに入信したのです。

かれの慈悲と き

神のご慈悲のみによって、私たちの耳と目を覆っていたもの、そして心を塞いでいたものが取り除かれ、イスラ ムという本物の真理に かれたのです。

これが、私がいかにイスラ ムを つけ、ムスリムになったかという改宗 です。この改宗 についてはインタ ネット上から追加分や写真などを つけ出すことができます。ぜひそれらを して私にメ ルを送ってください。そして に基づいた真理を共有し、私たちの 世と来世おける起源と目的を しようではありませんか。

私が改宗 を き、インタ ネット上に公 するようになってから、多くの他のサイトがそれを取り上げ、「牧 宣教 がいかにイスラ ムを したか」という有名な例になってしまいました。

そして、あなたがここに してくれたことに感 じます。キリスト教徒の友人のメ ルにも感 じています。もし彼がそれを送らなかったら、おそらく未だに私の家族、友人、そして私自身がいかにイスラ ムを 出したかというこの を き留められずにいたでしょうか。

ぜひこの逸 を友人の方々と共有してくれたいと思います。プリントして配ってみるのも良いかも知れません。ご存知の方々にこのリンクを ったり、この逸 についてホ ムページやブログなどで 介してくれると幸いです。神がお望みであれば、ひよっとすると、私たちがそうだったように、人々の人生に 化をもたらすかもしれません。

神があなたの旅に真理をもたらしますように。ア ミン。そして神が 世の真 と目的についてあなたを 眼させますように。ア ミン。

あなたに唯一なる全能の神からの平安と きあれ。かれこそは、あらゆる存在を 造し、それを 持する御方なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/101>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。